



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 489号

2015. 12. 7

発行責任者

岸田義典

目次

2015

- 開発途上国の農業機械化促進に有効な
知識・技術移転に関する研究
筑波大学大学院 大橋勇一氏.....2
- 国別輸出入 (2015年9月).....13
- WORLD NEWS.....18
- EVENTS CALENDER.....21

Vol. 10

400 万トン、輸入米 100 万トン増加を達成すべく農業機械化を急務とし、推進している国です。これまでの JICA の研修員は 10 名でした。

カンボジアで注目したひとつめは、カンボジア農業省農業工学部 (DAEng: Department of Agricultural Engineering) です。農業機械開発・普及を担っている農業省の部局です。地方事務局もあり、農業機械の普及・研修を実施しています。本部には、事務棟、作業場、倉庫、展示スペースがあり、職員は 100 名。27 名の技術者の中で、JICA 筑波の農業機械研修への参加者が 5 名 (技術者の約 20% を占める)。工学部長も JICA 研修の参加者です。

ふたつめは、カンボジア王立農業大学 (RUA: Royal University of Agriculture) です。農学部、畜産学部、農業工学経営部、森林学部、水産学部の 5 学部があり、農業工学経営部に農業機械専攻コースが含まれます。農業機械科のコースには 100 名の学部生が在籍し、卒業生は農業省 (DAEng 他) や NGO、民間企業等に就職します。農業工学経営部長は、JICA 研修の参加者です。

水平型移転 (カンボジア)

それぞれ持ち帰った試作機を所属先で報告し、それぞれの職務で改良を重ねていたことがわかります。改良した事例として、一人の研修員は改良が途中で止まってしまいました。所属長に言わせれば、まだ技術が止まっているので、そこから先の改良方法が分からず研究中ということでした。もう一人の研修員は、播種機を改良・実験もしましたが、政策が変わり、IRRI が製作したベトナム製の播種機が優先されたため、自分が試作した播種機は後回しに



図 8 カンボジア

なったと言っていました。ただ製作した技術等は開発に役立っているそうです。

ルワンダ (Type3: ツリー型) (図 9)

ルワンダは、国土面積 2 万 6,340km²、人口 1,130 万人、一人当たり GNI 613 US \$ (192 位) と貧しい国です。昔は内戦・内乱で大変でした。しかし近頃は若い国で非常に伸びています。ルワンダ政府の農業政策は、自給自足型の農業からアグリビジネスへの投資拡大等を含めた市場志向型の農業にシフトしています。ルワンダからは、これまで 10 名の研修員がありました。ルワンダの農業機械導入の現状をみると、農業機械は 4 % のみで、中国製 (小農具) や韓国製が多く、そのシェアはいまだ小さいです。営農現場の動力源力としては、約 96% が人力・畜力に依存しています。また農作業の担い手は女性である場面が多いという特色があります。

ツリー型移転 (ルワンダ)

試作機のデモンストレーションの様子を現地の新聞やマスコミが報道したところ、話題が拡がり、JICA 筑波に全国セミナーを開催したいと申し出がありました。それで、JICA 筑波がインストラクターを派遣し、全国レベルのワークショップを実施→それに参加した企業が学んだ技術を基に自分で改良し、唐箕と足踏脱穀機を製品化して販売→米国の JICA がこの製品を見て 200 台購入し、それをルワンダ国内に配布。こうした流れができ、結果的に農業機械化に貢献したという事例があります。

タイ (Type4: 複合型) (図 10)

タイは国土面積が 51 万 3,120km²、人口 6,670



図 9 ルワンダ